

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 56

京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



まちづくり報告

「京町家カルテ」はじめました
京都景観フォーラム
洛中洛外図屏風勉強会
4世代で暮らす、伏見深草 旧街道沿いの母家



まちづくりイベント

京町家まちづくりサロン・京町家まちづくり散歩
景観・まちづくり大学



コラム

私と京都
灯りでむすぶ姉小路界限
スタッフのつぶやき



<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

まちがいさがし

A、B 2つの絵に間違いがあります。
いくつあるかお答えください。



正解者に抽選で5名の方に

「京いまむかし彩色写真館」ポストカード(12枚組)をプレゼント。

はがきに答えと住所・氏名・連絡先を
書いて右記住所まで

11月30日当日消印有効。

財京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127

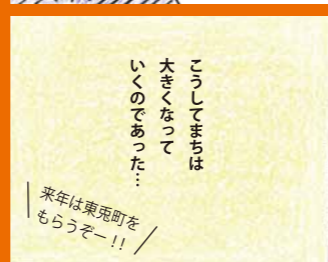
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町
83番地の1 ひと・まち交流館 京都 地下1階

京まち工房55号 クロスワードパズルの答えは「世界遺産」でした。当選者は、プレゼントの発送に代えさせていただきます。

賛助団体

株式会社フラットエージェンシー / 株式会社八清 / 一般社団法人京都市不動産コンサルティング協会 / 松ヶ崎自治連合会 / 桂坂学区自治連合会 / 有隣自治連合会 / 社団法人京都市建築士事務所協会 / 株式会社地域計画建築研究所 / 株式会社ジェイアール西日本伊勢丹 / 株式会社マーブル / 平安建材株式会社 / NPO 法人古材文化の会 / 修徳自治連合会 / 京都駅ビル開発株式会社 / 京都市建築協定連絡協議会 / 株式会社ゼロ・コーポレーション / 社団法人京都市観光協会 / ローム株式会社 / 学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学 / 京町家居住支援者会議 / NPO 法人マンションセンター京都 / NPO 法人京滋マンション管理対策協議会 / 大阪ガス株式会社

京兔物語



京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間

平日・土 9:00~21:30
日・祝 9:00~17:00

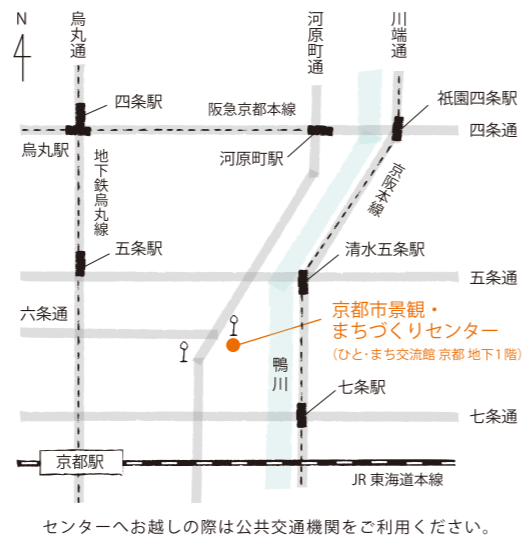
休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月29日~1月4日)

交通系統

バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分

まち右衛門
Twitter



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

design:Marble.co

「京町家カルテ」 はじめました

京町家カルテとは

伝統と文化を伝える財産として大切に守られてきた京町家の価値を「基礎情報」「文化情報」「安心安全情報」の3つの情報でまとめたものです。京町家の所有者・居住者の皆さまに、自らのおうちの価値を理解し、今後の維持、管理、活用、相続などに役立てていただくことを目指しています。

京町家カルテがあると



文化的な資産であることがわかります

お持ちの京町家の文化的な価値を形にします。次世代に受け継いでいただく価値のある建物であることをお伝えします。



維持、管理の参考資料になります

普段の維持、管理や、補修、改修をしていく上で参考になる、基礎的な情報が得られます。



流通の時に役立ちます

売買、賃貸等の色々な立場の方が関わるケースにおいて、共通の理解を持つためのツールになります。

(京都信用金庫では購入やリフォームに利用できる京町家専用住宅ローン「のこそう京町家」が設立されています。)

京町家カルテを作成するには

事前相談

京町家や京町家カルテについての相談がありましたら、まずはセンターまで、ご連絡ください。

申し込み

必要な資料、費用をご用意いただき、センター窓口で申し込みください。

調査

大工さん、設計士さん、京都市文化財マネージャーの方々に調査の協力をいただきます。調査の際は立ち会っていただきます。

カルテ完成

調査から約2週間でカルテの完成です。

費用

3万円
申し込み時にいただきます。
これらは調査費用になります。

必要な資料

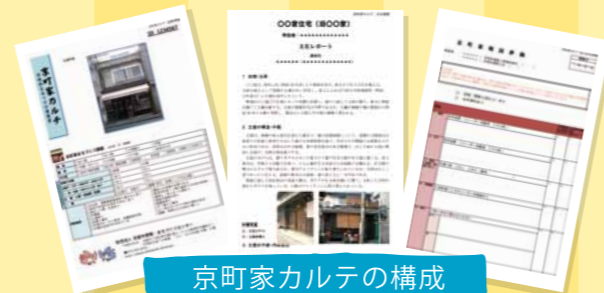
- 京町家カルテ申込書*
- 付近見取り図 (住宅の所在地がわかる地図)
- 外観と内観 (各部屋) のプリントした写真
- 身分証明書
- 登記事項証明書 (建物)
- 所有者以外の方が申し込む場合 —
- 委任状*
- 同意書 (家屋内への立ち入りに関する同意です。)

*センター窓口で配布、もしくはホームページ内よりダウンロードしていただけます。

基礎情報

文化情報

安心安全情報



京町家カルテの構成

京町家カルテ作成事例

京町家カルテを実際に作成された方の事例をみてみましょう。それぞれのうちのおうちのカルテを何のために作成し、どういうことに使っているか紹介します。



五条坂にある清水焼の職人長屋



五条坂にある長屋 (計8軒) は、奥に登り窯の史跡があり、昔は陶芸職人が住み、清水焼文化を支えてきた職人長屋でした。このうち2軒は長い間空き家でしたが、管理者が変わったことを契機に改修して賃貸物件として活用することを考えられました。また、現在賃貸中の建物も、安心安全に貸し続けるために、借家人ときちんと話をしていく必要性を感じていました。

人に貸す建物だからこそ、大家としてきちんと建物のことを知っておきたいと思い、京町家カルテを作成しようと思われたそうです。そして、建物の活用に向けて銀行の融資を受ける際や、借家人にきちんと建物状態を伝える際に、自分達の主観的な判断ではなく、第三者機関が作成した、説得力のある資料として使用されています。カルテの作成を通して、定期点検を継続的にしていくことが借家人の方々との信頼関係を築く上で大切なことだと感じられたそうです。



二条通の帽子屋さん



帽子制作の工房と店舗 (現在は店舗のみ) のある職住共存の町家を、今後お子さんが鍼灸院を営みながら住むという話になり、お子さんにおうちのことを理解してもらう参考資料として作成されました。

お子さんは関東にお住まいで、おうちを住み継ぐために京都に戻ってくるかどうかの検討を重ねていましたが、①改修して鍼灸院をすることが可能か、②どこを改修しなければならないか、③受け継いでもらう価値のあるおうちか、といったことが悩みでした。

現地調査では、これらのお悩みについて大工さんや設計士さんからアドバイスを受ける一幕もあり、おうちの良さや、改修して使ってほしいという話をしながら調査が進められました。

家の状態や価値がわかったと共に、今後も困ったことがあれば、まちづくりセンターという相談窓口があるということも安心感の一要素になったそうです。

現在は、職業は変わるものの、改修して職住共存の住まいとして受け継がれるようです。



寺町通の空き町家



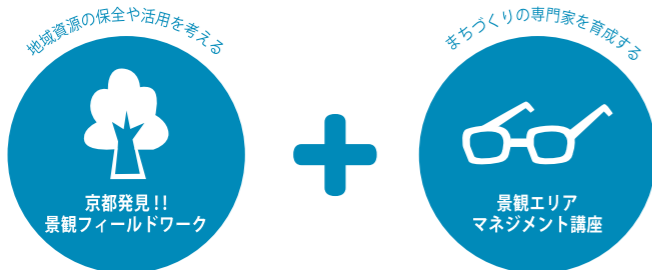
購入された空き家の改修を考えるためにカルテを作成されました。ご家族の希望により土間のある風通しのよいおうちを探したところ京町家に出会われましたが、「これって京町家なの?」という疑問があったそうです。また、いくつかの工務店に改修相談をしていましたが、それぞれ答えが違い、どれが家にとって正しいか判断できないという悩みも抱えておられました。

京町家カルテを作成したところ、元々は職住共存の町家で、少し改修、劣化しているものの大部分は元々の様相をそのまま受け継いでいる町家だということがわかりました。現在、改修工事中ですが、外観等を元通りに戻す方向で改修を進めておられ、京町家の歴史や文化を残していくことを望まれています。そして、改修後はセミナー等で、様々な方に使ってもらえるスペースとして活用することも考えられているようで、今後も楽しみな再生事例になりそうです。

京都景観フォーラム

平成23年7月4日、市民の視点と立場から京都の景観まちづくりを進める「京都景観フォーラム」が設立総会を開き、NPO法人化に向けて第一歩を踏み出しました。

京都景観フォーラムの活動



京都市未来まちづくり
100人委員会って?

事業者や学生、主婦など幅広い分野の市民が、京都の未来のまちづくりについて主体的に議論、提言、行動する市民組織として京都市により平成20年9月に設立。子育て、環境、景観、福祉、交通等の様々な分野で活動を行ってきました。

「京都景観フォーラム」は、京都市未来まちづくり100人委員会での活動をきっかけに、市民が主体となって景観まちづくりを進める道筋を検討してきました。その結果、市民が景観に対する意識を深め、語り、実践するムーブメントと、それを支える専門家の自己研鑽が必要との認識に至りました。そこで今後、景観フィールドワークを開催し地域資源の保全や活用を考える「京都発見!! 景観フィールドワーク」と、地域での景観まちづくりを進めるための専門家を育成する「景観エリアマネジメント講座」の2つの活動を中心に、NPO法人として継続的に行動することにしています。

設立経緯

Establishment details

平成20年9月	「京都市未来まちづくり100人委員会」発足（主催：京都市）
12月	同委員会内に「市民の景観」チームを設立 （平成19年に実施された「新景観政策」の現状と今後を考え、また実践的に活動する組織の設立を目指す）
平成22年3月	景観専門家養成講座準備委員会
4月	景観フィールドワーク開始
6月	「京都の景観にふさわしい公共サインをつくらう」プロジェクト開始
7月	京都景観フォーラム設立宣言起草
9~4月	京都景観エリアマネジメント基礎講座（第1期：トライアル）開講
平成23年4月	NPO法人化に向けて検討を始める
6月	京都景観エリアマネジメント実践講座開講
7月4日	特定非営利活動法人京都景観フォーラムの設立総会を開催
9月	京都景観エリアマネジメント基礎講座（第2期）開講

景観フィールドワーク



京都にふさわしい公共サインコンペ
最優秀賞作品



京都景観エリアマネジメント講座



洛中洛外図屏風勉強会

平成23年3月、センターの地下1階に「上杉本 洛中洛外図屏風」のレプリカが設置されました。



この屏風は、織田信長が上杉謙信に贈るために、狩野永徳に描かせたものと言われています。（諸説あり）約4世紀前の京の市街（洛中）と郊外（洛外）の風俗が描かれており、美術品としての価値の高さはもとより、当時の都市、建築を知る上でも貴重な資料です。

今回、この屏風をより多くの皆さんに知っていただきたく、センターの展示案内ボランティア向けに、「洛中洛外図屏風勉強会」を行いました（7/19開催）。講師は花園大学の高橋康夫先生。屏風に描かれた名所や年中行事、風俗、京に暮らす人々の生活などを勉強しました。

「洛中洛外図屏風を知りたい!」という方は、ボランティアがガイドを務めますのでぜひお越しください。
（ボランティアは不定期です。お気軽にお尋ね下さい。）

オリジナルは、山形県米沢市上杉博物館にて所蔵されています。

私たちが案内します
ちょっと
見どころ紹介

近づいてよく見ると、色々な京都の風景や人々の暮らしが描かれています。「一体これは今のどの辺り?」「この人は何をしているの?」不思議に思ったらボランティアにお尋ねください!



見どころ1

屏風には場所により、色々な季節の風景が描かれています。現在のまちと比較してみると面白いかもしれません。



雪の金閣寺

見どころ2

祇園祭の長刀鉾はこの頃からあったことが伺えます。他の山鉾も探してみてください。通る所も今とは違うものもあります。



祇園祭の長刀鉾

景観・まちづくり大学

Landscape and community collaboration university



景観・まちづくり大学は京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。

京のまちづくり史セミナー

第1回 7/30 (土) 開催

京の緑とまちづくり (古代～中世) —「市中の山居」小世界で創造された生活文化—

講師 高橋 康夫氏 (花園大学教授・京大名誉教授)
会場 京都市景観・まちづくりセンター

近年注目される京町家の庭の基本的な思想は「市中の山居」に由来します。17世紀、宣教師ロドリゲスは「市中の山居」を「都市の中に見出される静寂な境致」と記しています。当時、人口数万の大都市「京都」で、力をつけてきた町衆は伝統的な貴族文化を継承しつつ、生業と居住の空間に次元の異なる数寄の空間をつくり、自然を生活空間に持ち込む「茶の湯」という町衆文化を生み出しました。町家の「奥」に造られた侘数寄の造形空間が、「過去」を向いているのが興味深い点です。屋敷の表にある現実から隔たれたこの虚構の空間で、遁世者として振る舞うことが町衆の楽しみであり、過去を見ながらも未来を志向していく都市文化の胎動が感じられます。



Q. 数寄とは何ですか？

A. 「物好き」のことですよ

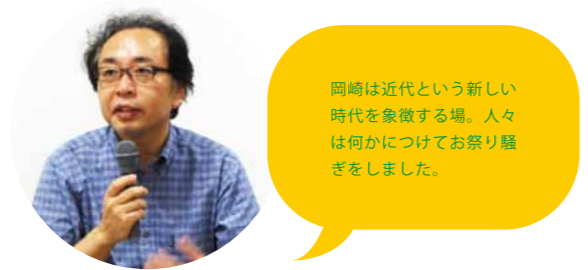
活力が満ち溢れる雑踏の巷と市中の山居の対照は際立ち、新興町衆の好みや居住形態とその文化に見事に合致しました。また、粗末さのなかに非常に美しいものを発見する＝「侘び」という考え方が、文化的にもゆとりのある生活を確立していきました。大都市のなかの極小の空間に自然を持ちこむことに、都市に住む面白さや知恵が読み取れ、現代の生活環境に示唆する点も少なくありません。都市のなかにあっても自然と共に暮らすことは、時代を超えて日本人の心に共有される生活文化です。

第2回 8/27 (土) 開催

京の緑とまちづくり (近世・近代) —東山における自然の保存と活用—

講師 中川 理氏 (京大工学繊維学教授)
会場 京都市景観・まちづくりセンター

明治維新後、京都は近代都市への脱皮を目指します。明治23年に完成した琵琶湖疏水事業も、近代都市の基盤を作るという意味合いが大きく、積極的に西洋デザインが使われました。しかし、都市中心部の住民の暮らしは大きな変化を遂げませんでした。近世までの自治の仕組みが学区として継承され、行政制度や産業構造の近代化が遅れます。一方で、明治28年に開催された第4回内国勧業博覧会を契機に、開催地であった岡崎が、京都の近代化を象徴する場となります。市内中心部が変わらずに維持される中で、この地が祝祭空間・広場としての役割を果たしていくようになるのです。そして、この博覧会を契機として「歴史都市」として認められるようになると、岡崎から東山山麓にかけて、琵琶湖疏水から水を引いた小川治兵衛作庭の日本庭園を取り入れた邸宅群が造られていきました。



岡崎は近代という新しい時代を象徴する場。人々は何かにつけてお祭り騒ぎをしました。

変わらなかった市内中心部は、それでも、明治末に実施された道路拡築の事業によって近代都市空間として整備されます。これにより、市民の中にも、都市全体の近代的な造形美が共有されていくようになります。その中で昭和の初めには、東山は、都市美の延長として開発すべきか、あくまで保存すべきかという論議も戦われるようになりました。しかし、いずれにしても、東山の山並みを景観美の対象として捉えるようになったのは、近代からなのです。京都だけでなく、近世までは、都市周辺の山は木材資源として利用され、禿げ山に近い状態が多かったのです。近代以降、岡崎の、そして京都の背景として意識されるようになった東山は、植林も積極的に行われ、そこを舞台とした大茶会が催されるなど、「歴史都市」京都にとって特別な存在になっていったのです。

文 = 大久保悠子

まちづくり実践塾

第1回 8/27 (土) 開催

「防災まちづくり」 —東日本大震災を人ごとにしな—

講師 牧 紀男氏 (京都大学巨大災害研究センター准教授)
会場 京都市景観・まちづくりセンター

3.11の影響後、今私たちは何をすべきなのか。今年度まち塾のテーマは、「防災まちづくり」。まず大切なのは危機管理。何を守るのか。想定される被害は何なのか。被害に対してどう対処するのか、一人一人がしっかりと把握することが重要です。その一つとして、身近な断層の位置と地震の周期を知ること。地震は地域によって被害が全くことなるため、お住まいの地域ごとに確認が必要です。

詳しくはセンターウェブサイトにて！
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

地震ハザードステーション 京都市すまい耐震支援窓口
URL <http://www.jw-shis.bosai.go.jp/> 受付 午前10時～午後5時 (日・祝除く)
TEL 075-644-5874
URL <http://www.kyoto-jkosha.or.jp/taishin/index.html>



「彼を知り己を知れば、百戦して殆からず」
孫子の兵法
命を守り、被災後の生活再建を視野に入れた備えが大切です。行政の被害想定に基づき、地域の危険箇所、災害弱者、避難場所等についてワークショップで意識共有してみましょう。

文 = 丸岡翔 (京都造形芸術大学インターンシップ生)

京町家住まい方ラボ

第1回 7/3 (日) 開催

「京町家の夏を科学する」 —夏を乗り切る知恵と工夫—

講師 松原斎樹氏 (京都府立大学生命環境科学研究科教授)
コーディネーター 朝倉真一氏 (まちひろば計画工房主宰)
会場 井上邸 (下京区)

湿度も多く暑い京都の夏。打ち水や浴衣、夏ならではの建具など、暑い夏を乗り切る知恵や工夫が受け継がれてきました。こうした涼を得る工夫は見た目にも涼しく、夏ならではの風情があります。今回は、涼しさを感じる人の感覚という視点から、暑い夏を乗り切る知恵や工夫に科学的な視点から迫ってみました。計測器を使った実験など、楽しみながら京町家への理解を深めつつ、過ごしやすい季節を乗り切る知恵や工夫を考えました。



涼しげな町家の庭

夏の数物「あじろ」

文 = 大屋みのり

お知らせ

景観・まちづくりシンポジウム
「京都まちなか街区の防災を考える」
10/1 (土) 午後2時～4時30分
場所 ひと・まち交流館 京都 2階大会議室

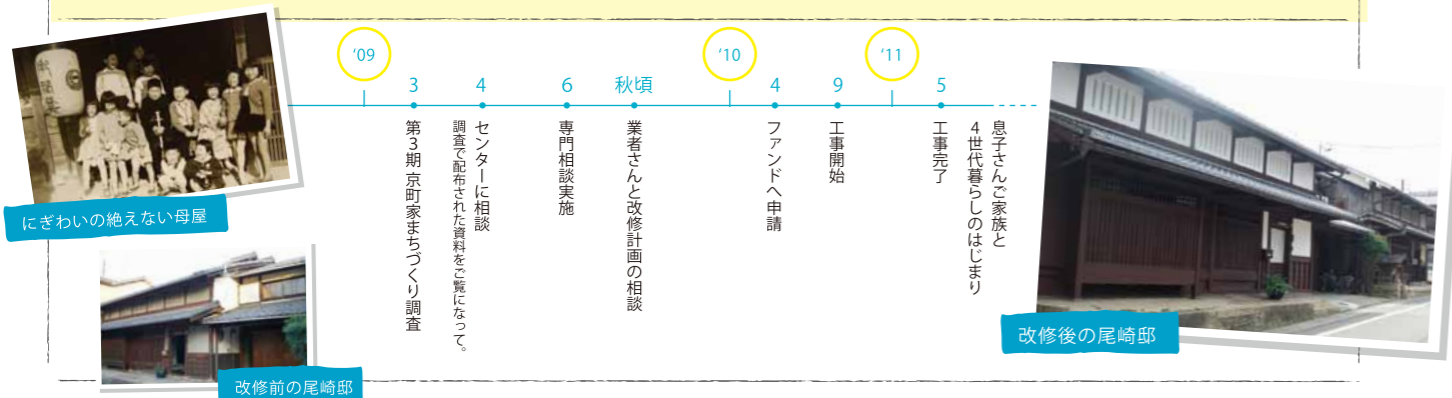
3月11日の東日本大震災と同規模の大震災が関西圏で起こった場合、伝統的な木造建築の多い京都では大きな被害が想定されます。災害から人の命を守り、生活や風景を守るために今、京都に住む我々は何をすべきか。「町家暮らし」に象徴される密接なコミュニティが地域防災の要になります。本シンポジウムでは、関西圏における大地震に備え、京都の日常の暮らしや風景がある「街区」単位で取り組む防災とそのポイント等について、あらゆる視点から紹介し、市民の皆様と一緒に日頃のまちづくりや防災活動について考えていきます。ぜひ、ご参加ください。



申し込み先
京都いつでもコール
075-661-3755

4世代で暮らす、 伏見深草 旧街道沿いの母家

これまでの道のり年表



尾崎邸 平成22年度京町家まちづくりファンド改修助成

尾崎さんの町家のたたずむ深草の旧街道には、今でも旧家が立ち並び、その景色は第3期京町家まちづくり調査のボランティア調査員からも「ベスト通り景観」と評価されたほどの、美しい景色です。

築80年の町家は、屋根など外観の傷みが気になっていたところ、結婚をひかえた息子さんから「今のままを残してリフォームしたい」と、声があがり改修することとなりました。

4世代が心地よく暮らす工夫



床の間

古くから農業を営んでいた尾崎邸には、主屋の隣に納屋、奥には蔵と離れがあります。この広い間取りを活かして、主屋の2階に息子さんご家族、納屋だった建物の2階に尾崎さん、離れにお母様とそれぞれのスペースをつくりました。主屋の1階は、4世代みんなの共有スペースです。天井板をぬいて梁を現したフローリングの居間では、大きなテレビが置かれ、食事をしたり、のんびりお喋りをしたり、ゆったりとした優しい時間が流れています。

古い様式を活かして

傷んでいた屋根を葺き替えて、むしご窓や出格子、土壁も丁寧に修繕されたので、もとの外観が活かされています。室内のキッチンやお風呂場を使いやすいよう新しくリフォームしたのに対して、広い土間やお座敷はもとのかたちを大切に残しました。お座敷で和裁のお教室をしたり、お祭りのある時は格子戸をはずして、お飾りをしたり、人が集まる場に表情を変えます。



広い土間

この町家は、昔から地域では「母家」と呼ばれ、人のにぎわいの絶えない家だったといえます。近所で暮らしているお孫さんたちも、広いお座敷でかくれんぼをしたり、土間にピアノを置いて将来ミニコンサートをするを楽しみにしているそうです。気負わずゆったりと集える、現代の母家として再生されました。

売上げの一部がファンドへ寄付されます。

京町家まちづくりファンド寄付つき商品



井筒八ッ橋

(株)井筒八ッ橋本舗様のご協力で、1箱につき1円の寄付をいただいています。おみやげにどうぞ！



支援自動販売機

飲料メーカーと設置協力者とのご協力により、売上げの一部を寄付いただいています。



京町家まちづくりバナナ

(株)ドール様と京都青果合同(株)様のご協力により、1房1円の寄付をいただいています。京都市内の百貨店やスーパーで売っています！

支援自動販売機

飲料メーカーと設置協力者とのご協力により、売上げの一部を寄付いただいています。

文 = 大屋みのり



京町家まちづくりサロン・京町家まちづくり散歩

「京町家まちづくりサロン」と「京町家まちづくり散歩」は、参加費の一部が京町家まちづくりファンドへの寄付となるチャリティーイベントです。

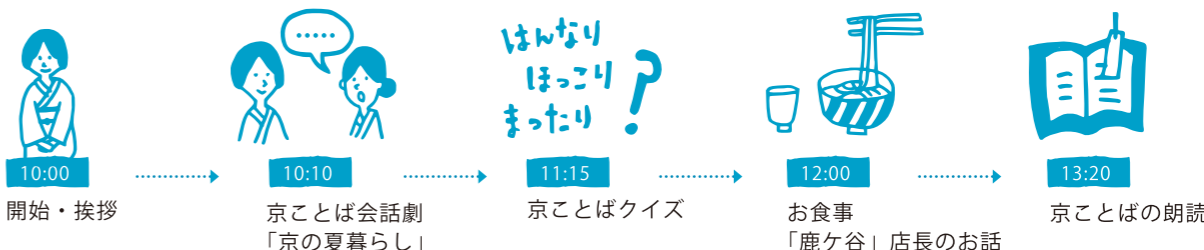


京町家まちづくりサロン

7/30 (土) 開催

「京の四季を愉しむ会 in 四条京町家」
—夏「京の夏暮らし」—

協力 京ことばの会、鹿ケ谷
共催 NPO 法人 四条京町家



テーマは「京ことば」と「夏野菜」。『京ことばは私達が伝えなければ途絶えてしまう、だからできるだけ多くの皆様に伝えていきたい』と活動を続ける「京ことばの会」の皆さんによる、会話劇「京の夏暮らし」を観劇しました。ある家族の日常会話を通して、町家暮らしの知恵や夏の祭事、こわ〜い幽霊飴のお話から90歳のおばあちゃんに聞く昭和初期の暮らしなど、京ことばでほんのり懐かしい京都暮らしに思いを馳せました。今回の昼食は、夏を感じる都野菜のおばんざいと晦日(つごもり)うどん。NPO法人四条京町家理事長の小泉光太郎氏によると、商家のおきまり料理で月末に麺類を頂いていたという風習から「晦日(つごもり、みそか)うどん(そば)」と言うようになったそうです。今回特別に、夏野菜のおばんざいを作っ

ていただいた「鹿ケ谷」の店長から都野菜のお話をうかがいました。スーパーのトマト、減農トマト、有機・無農薬トマトの3種のトマトの食べ比べを体験し、私達の味覚も刻々と変化していることに気づかされました。京町家での四季の暮らし体験。次の世代に伝えなければ途絶えてしまう…。京ことばだけでなく、京町家暮らしや食文化もそのひとつかもしれません。

京町家まちづくりサロン

— 秋「建具の話と建具替え体験」 —

10/1 (土) 開催

今回は秋に建具替え体験を行います。この機会にぜひ、体験を通して京町家暮らしに触れてみませんか。

京町家まちづくり散歩 The Deepest Kyoto Tour

8月から、外国人を対象に京町家の魅力を伝える、英語ガイド付きまちあるきを月に2回開催しています。



京阪「清水五条駅」に集合し、清水焼の登り窯、六道珍皇寺、宮川町など清水地域を巡る2時間のまちあるきの後、実際に居住している京町家で日本茶と和菓子を味わいます。

開催日 毎月第2・4水曜日の午後1時～4時
参加費 2,800円(1人)
定員 15名(要予約)

※12月は第2・3水曜日。その他の日程についても、お問合わせに応じて検討します。
※参加費のうち、500円が「京町家まちづくりファンド」への寄付となります。



文 = 小林明音

私と京都

姉小路界隈を考える会 事務局長
谷口 親平



外側からみた京都

70年代、大学生であった私はヒッチハイクでヨーロッパを2度旅しました。都会にいても田舎へ行っても目に映る景色は新鮮でした。都市部の建築や公共建造物はデザインの洗練されており、地方部では民家が農場、牧場の自然とよくつりあった風景でした。ヨーロッパはどこへ行っても何故こんなに美しいのかと衝撃を受けました。

工学部土木科を卒業し、その後、大手建設コンサルタント会社に就職しました。大阪万博の少し後、高度成長時代の真っ只中で、日本全国の高速道路やトンネル設計に多忙な日々でした。

一般の方は関心が少ないでしょうが、日本の土木の設計は個人主張が出来ない世界です。安全性、経済性、それと維持点検の容易性という序列、美観性はその次の順位です。ヨーロッパの風景が脳裏に焼きついていて私は、クライアントにお勧めして、トンネルの坑口（エントランス）デザインには少しこだわったものです。

他方、建築の世界でも、デザインの自由性があるにもかかわらず、この時期、美観性よりも経済性優先で、デザインの配慮に工夫が足りない建築物が多かったように思います。

自宅通学、通勤をしていた私は、京都しか知りませんでした。93年に初めて東京単身赴任を命じられました。この在任3年間、京都と比較しながら東京の隅々を散策して気付いたことが沢山ありました。

まず、徳川家康の都市づくりは京都をあこがれとして形成されていること。次に、現在の東京は地方からの出身者が多数派で、生粋の江戸っ子は少数派ということ。そして現在の東京人たちも、大

変なあこがれと望郷の念で京都を見ているという事実です。仕事の関係上、多くの企業人や学識者との交流の機会に恵まれましたが、多くの人々にこうした思いが強いという印象を持ちました。私は京都市の中心部に生まれているのに、京都の価値を水か空気くらいにしか認識していない、そんな自分を痛感したことを覚えております。

ちょうどそんな矢先に、京都らしからぬ建物が留守宅の我が家のまわりに建設されようとしていました。4~5階の中層しかない姉小路盆地の現況を、京都の空間資産として価値を継続させるためにも、とにかく、不釣り合（ボリュームと質）な建築物で値打ちを落としてはならない。そんな思いが芽生え、住民運動として根付き、まちづくりを継続させる原動力となったことはいうまでもありません。

井の中の蛙にとって、外側からも京都を見つめられたことは東京単身赴任が幸いしたようです。人や物や制度を大きく育てるには大変な手間がかかります。高度成長以来、日本人はその手間を惜しんだような気がします。東日本大震災が起きたこの時代、私たちは人づくり、まちづくりにじっくりと取り組んでいかねばならない再契機です。多くの日本人の、心のよりどころである京都を粗末にしたいのなら、自分の足元を粗末にしないことが大切です。人は一人では微力ですが、多くがよれば意識変革も可能です。

この夏、特別な思いで東日本大震災の被災者、そして先祖の冥福を祈りながら大文字をお送りしました。平和な社会と住み良い環境を、次世代に引き継ぐ責務と決意を感じながら…

灯りでむすぶ姉小路界隈

8/20 (土) 18:00~21:00

姉小路行灯会

会場 姉小路 (富小路~柳馬場間)

今回、「私と京都」に寄稿いただいた姉小路界隈を考える会の谷口事務局長をはじめ市古会長、姉小路界隈の皆さんが取り組んでこられた行灯会は今年で15年目を迎えました。姉小路界隈に住まわれる方、京都御池中学校の皆さん、中京もえぎ幼稚園の皆さん、その他多くの方が関わりながら準備が進められ、姉小路通の東は寺町通から西は烏丸通までの678mの区間に600基の行灯が飾られました。

姉小路界隈を考える会 URL <http://www.aneyakouji.jp/>

主催 姉小路界隈を考える会 / 共催 都心界隈まちづくりネット / 協力 中京もえぎ幼稚園、京都御池中学校



中京もえぎ幼稚園のお遊戯

姉小路のデュオ

スタッフのつぶやき



スタッフ O.Y

事業課の
ナタリー・ポートマン。
上洛して8年、
このまちが好きです。

センターの仕事を通して、地元の皆さんの温かい関わり合いを目の当たりに、密接なコミュニティの在り方について学ぶことの多い毎日です。

大震災が起きたあと、「家族や地域社会とのつながり」の大切さを改めて認識したという声をしばしば耳にします。家庭や職場、

地域にある自分の「役割」、そこにある「関係性」が、人の日常をどれだけいいものになっているのだろう、との被災者の声に共感します。「当たり前だと思っている日常は決して当為のものではない。毎日そういう気持ちで丁寧に生活できたら素晴らしい」と思う今日この頃です。

センターのおすすめレシピ

京町家 バナナで作るデザート

バナナラッシー



バナナは栄養満点のポピュラーな果物。ケーキなどのデザートの材料としても使われていますが、今回は、誰でも簡単に作れるバナナラッシーを紹介。ミキサーがなくても作れますのでぜひお試しください。あっ！そうそう、バナナはもちろん京町家まちづくりバナナ* (P8参照) を使ってくださいね。

* 京町家バナナの販売店舗：平和堂（京都府下）・生鮮館なかもら・スーパー大國屋・FOOD SHOP エムジー・京都高島屋 八百一・京都伊勢丹 八百一・近鉄百貨店桃山店 八百一（時期によりお取り扱いしていない場合があります。）

材料

- バナナ…………… 45g (約1/3本)
- 牛乳…………… 160g (150ml)
- レモン果汁…………… 20g
- はちみつ…………… 20g
- ジッパーバッグ or ビニール袋… 1枚

作り方

- 1 バナナの皮をむいたら袋の中に入れる。
- 2 牛乳、レモン果汁、はちみつを袋の中に入れる。
- 3 ジッパーを開けて手で軽くもむ。

